

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 36-002

PDCA	事務事業名	水道施設地震対策事業	部課等名	水道部 上水道課 工務担当	担当 内線等	石川 493	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第3節 生活環境の向上					
		基本施策： 1. 水道					
		単位施策： (1) 水道の安定供給					
	根拠法令等	水道施設の技術的基準を定める省令第1条					
	対象・目的	配水池からの基幹となる管路（主にφ300mm以上の配水管）の耐震性の向上を図ることにより、大規模地震等の被災時に被害を最小限に留め、長期の給水制限を避けることを目的とする。また、応急給水及び応急復旧活動へ速やかに移行する体制構築を目的とする。					
	目的を達成するための手段・活動内容	耐震性が劣る基幹的な管路の布設替工事等を実施し耐震化を進めるとともに、大規模地震等の被災時において早期の給水が求められる透析医療機関等の重要給水施設への路線について、耐震性の高い管路として整備をする。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①大口径配水管測量設計調査業務委託等	0	0	1	件	
		②大口径配水管改良工事	632	51	277	m	
		③防災拠点施設への配水管布設工事	4	—	—	か所	
		事業費	238,436	154,295	196,319	千円	
		人件費	6,246	11,799	8,332	千円	
		総事業費	244,682	166,094	204,651	千円	
		活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①大口径配水管布設1m当りコスト	259	608	289	千円/m		
	②防災拠点施設への配水管1m当りコスト	104	—	—	千円/m		
	成 果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①大口径配水管の耐震化率	実績値	56.6	57.2	57.8	%
			目標値	56.6	56.7	58.0	
		②防災拠点施設への応急給水栓整備率	実績値	100.0	—	—	%
目標値			100.0	—	—		
実績値							
目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	事業の評価・課題	B					
		大口径配水管改良工事については、昭和40年代に布設された耐震性に劣る配水管の布設替工事を計画通り実施することができた。また、令和2年度より新たに実施している医療機関等の重要給水施設（半田東クリニック始め3施設）への管路整備について、計画通り2施設において耐震性の高い管路として整備することができた。					
		大口径配水管の耐震化については、JR武豊線連続立体交差事業に関連する路線の一部を事業の進捗に合わせて実施することとしたため、耐震化率が目標値を下回った。					
		今後も継続して、配水管整備計画等をもとに耐震化工事を実施し、耐震性の向上を図る必要がある。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	拡充推進					
		大規模地震による被害が想定されており、被災時のライフライン確保は市民の関心も極めて高い。耐震管は、東日本大震災でもほとんど被害が発生しておらず、その耐震性能は高い評価を得ていることから、被災時に早期給水を必要とする重要給水施設への供給路線の耐震化を最重要課題として計画的な布設替えを進めていく。					
	令和3年度の目標	成果指標	目標値			単位	
		①水道管（φ300mm以上）の耐震化率	59.5			%	